

いまは閑静な住宅地の片隅に、大きなクスノキと生家を記す碑が建っている。左に回れば、「かっぱとドンコツ」に収録された「エヘンの橋」もある。

坪田譲治生家跡
岡山市北区島田本町2



JR岡山駅西口には善太と三平の兄弟像「永日抄—二人—」がある。

ふるさとに愛があふれる

坪田 譲治 (つばたじょうじ)

明治23(1890)年～昭和57(1982)年

本名同じ。小川未明と鈴木三重吉に師事し、ふるさとを舞台にした作品を発表。三重吉没後は『赤い鳥』の理念を継ぎ、『びわの実学校』を創刊する。

岡山市立中央図書館



参考資料コーナーに坪田作品を展示するほか、仕事場を再現する。また玄関前には、善太と三平の兄弟像もある。

岡山市北区二日市町56

☎086-223-3373、10:00～18:00、月休・P有

「岡山市では坪田を顕彰しています」

岡山市では創作活動の奨励と文化向上を目的にした「坪田譲治文学賞」を制定しています。

学芸副専門監 飯島 章仁さん



◎岡山シティミュージアムでも坪田譲治の展示(不定期)がある。
JR岡山駅西口向かい ☎086-898-3000、10:00～18:00、月休

読みたい一冊

最高傑作といわれ、大人と子どもの垣根を越えて読み継がれる一冊。生きることの尊さを伝える。新潮文庫。



フルーツのまちおかやま。

白桃やビオナーネなど上質フルーツが一年中、収穫される岡山の魅力を発信するため市内のカフェではオリジナルパフェを提供する。写真は船穂町産マスカット・オブ・アレキサンドリアと総社産白桃のダブルフルーツパフェ。



ANAクラウンプラザホテル岡山/
カジュアルダイニング
ウルバーノ
岡山市北区駅元町15-1
☎086-898-2268



作品に映された子ども時代の思い出。

田園の中、セミを追いかけてたり、川に飛び込み、フナを捕まえたり、そんなふるさとのもちの情景を子どもの視点で描いたのが坪田譲治だ。

島田本町にあった生家はランプ芯を作る工場、島田製織所を経営していたが、8歳のときに父を亡くし、家業を継いだ兄を手伝いながら母に育てられた。小中学校時代は、大の読書好きで、早稲田大学文科予科へ入学後は、第一線にいた童話作家の小川未明に大きな影響を受ける。卒業後は家業の傍ら、作品を書き続け、鈴木三重吉らの指導を受け、昭和10(1935)年の『お化けの世界』で脚光を浴びる。児童文学

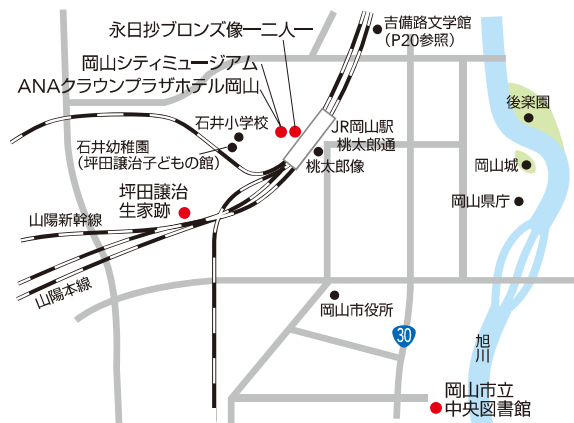
作家としての地位を築くことになった『風の中の子供』で、主人公として登場する善太と三平の兄弟の物語は、厳しい大人の世界の現実に触れながら、それを跳ね返す子どもの天真爛漫さを描いたもので、坪田自身がふるさとのもちで体験したものと重なる。坪田にとって、岡山のまちはずっと父であり、母であり続けた。生家付近には作品に登場する場所が点在する。ふるさとを愛し続けた坪田の足取りを見つめよう。



坪田の母校がある石井学区には「坪田譲治の街」の幟が並ぶ。

坪田 譲治と岡山

【岡山県】



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

桃太郎のまちの発見!

岡山といえば、桃太郎伝説のまち。JR岡山駅東口の桃太郎像を起点にスポーツめぐりも楽しい。市内の通りに建つ像、道路の鬼の金棒型のガード、マンホールの蓋にも注目したい。

